

# 令和 4（2022）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

ブロック：西海ブロック

クルマエビ

海域	玄界灘佐賀	参加機関	佐賀県玄海水産振興センター、水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部
----	-------	------	---------------------------------------

## (1) 調査の概要

- ・水産資源研は、調査指針および状況報告書を取りまとめた
- ・佐賀県は、生物情報収集調査を担当した
- ・佐賀県は、県内主要市場における水揚量調査を実施した

## (2) データ収集状況

- ・佐賀県の主要市場における過去の水揚量、農林統計の属人水揚量データを収集した

## (3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道南部以南から東南アジアの内湾に生息する（久保 1955）。砂泥質の底質環境を好み（梶山 1933）、佐賀県唐津湾では夏季に湾奥の浅海域に小型の個体が分布し、成長するに従って次第に湾中央部に移動することが確認されている（佐賀県 1992）
- (2) 年齢・成長：寿命はほぼ単年、長くても 2 年。他県干潟で発生した個体では、1 年で 10 cm、1 年半で 15 cm、2 年で 19 cm に成長したとの報告がある（梶山 1933）
- (3) 成熟・産卵：およそ 1 歳で成熟し、産卵に加入する（佐賀県 1993）。1992 年に行われた調査の結果、成熟度の指標となる生殖腺重量指数（GSI）が 5 以上と、高い値を示す個体が 4～10 月にかけて出現していた。5～8 月は GSI が 5 以上の個体が 30% を超えており、特に 7 月は 50% を占めたことから、唐津湾での産卵最盛期はこの頃であると考えられる（佐賀県 1993）。本種の産卵は年に 1 度であり、卵は海中に放卵される
- (4) 被捕食関係：本種は、二枚貝、ゴカイ類および甲殻類を主に餌としている。エビジャコのほか、クロダイ、クサフグ、スズキなどの魚類に捕食されることが報告されている（倉田 1972、1986）

## (4) 備考

- ・資源評価調査報告書については令和 3 年度に作成および公表済み

## 引用文献

梶山英二 (1933) 車蝦の産卵並に発生調査. 広島県水産試験場研究報告, **12**, 134.

- 久保伊津男 (1955) クルマエビの群成長度. 日本水産学会誌, **20**, 870-872.
- 倉田博 (1972) クルマエビ栽培における種苗とその播殖に関する諸原理について. 南西水研業績, **32**, 45-69.
- 倉田博 (1986) 第 1 編クルマエビ栽培漁業の基礎知識第 1 章クルマエビの生活. さいばい叢書クルマエビ栽培 漁業の手引き(クルマエビ栽培漁業の手引き検討委員会編), 日本栽培漁業協会, 東京, p.1-3.
- 佐賀県 (1992) 唐津湾 クルマエビ. 平成 3 年度 資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 (地域重要資源), 1-15.
- 佐賀県 (1993) 唐津湾 クルマエビ. 平成 4 年度 資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 (地域重要資源), 1-25.